

第1学年 学級活動指導案

日 時 平成18年11月15日(水)

生 徒 1年A組 男子 20名

女子 18名

計 38名

指導者 長畑 滋彦

1 題材名 「自分をよく知ろう」

2 題材設定の理由

(1) 題材について

特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」である。自己を生かす前提として、自分をよく知るということは不可欠であり、様々な方法によって自己を理解することは大きな意義がある。

現代は多様な職業が存在し、選択する上では広範囲の選択権が与えられるが、「何に向いているのか」といった自分の特色を把握しないことが原因で転職を繰り返す例も少なくない。そういった意味で、自分の能力や適性などの自己理解を深めていくことは、進路の学習を進めていく上で、かなり重要となってくる。本題材では、人それぞれの「個性」についての理解を深めながら、自分についてさらに詳しく分析し、自己理解をしていくという過程をとっている。自己分析の視点や方法について理解を深めるとともに、第1時では、「自己分析カード」を通して自分の特色を整理し、自己理解の学習をさらに他の面から進める手段として、自分の特色を級友などから指摘してもらうことを通して、客観的にまとめていく学習形態をとる。第2時では人の個性と職業の関係を考え、個性を生かしながら将来の職業選択に結びつけていけるよう導きたい。

本学年では「自他のよさを認めることができる生徒の育成」と「自分の考えをまとめ、発表できる生徒の育成」をめざしており、これらの指導にもふさわしい題材であると考えている。

(2) 生徒の実態

略

(3) 指導の構想

本題材の指導にあたっては特に「情報活用能力」に焦点を当てたいと考えた。自分の特徴や友達の特徴をまとめたり、様々な視点からの資料をもとに自己分析をしたりしようとする能力を育成したい。そのため、多面的に自己を見つめる場を設定することと他者の分析を行うことや他者からの分析を知ること、自己理解の深化を図りたい。自己の個性と職業との関係を考えることを通して、漠然とした将来の希望から具体性を帯びた職業選択へと向かうよう、導きたい。

3 指導計画(全2時間)

この題材では、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の育成を図る。

(1) 自分を知るための視点や方法を知り、自分を知る。(1時間) 本時

(2) 様々な視点からの自己理解を試み、将来の職業選択を考えようとする姿勢を持つ。(1時間)

○人間関係形成能力

自分や他者を理解しようとすることができる。

○情報活用能力

・「自己分析カード」をもとに自分の特色を見つけることができる。

・いろいろな情報をもとに自分の特色をまとめることができる。

○将来設計能力

自分の個性を生かす今後の生き方について考えることができる。

○意思決定能力

自分の特色・能力・適性などを考慮し、現実を踏まえながら夢の実現に向けて努力していく姿勢を持つことができる。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

様々な視点からの自己理解を試み、個性を知り、伸ばそうとする。

個性を認め合うことにより、円滑な人間関係を築こうとする。

(2) 本時の展開

段階 時間	学 習 内 容	学 習 内 容		指導上の留意点 評価
		教師の働きかけ	生徒の活動	
導 入 7分	1 離職についての資料を提示する。	・離職率についての資料を提示し、学習への関心を引き出す。	・離職率のデータから、仕事をやめる理由が何であるか知る。	
	2 本時の学習課題を確認する。			
自分を知ろう				
展 開 30分	3 自己分析カードに記入する。 【書く】	・性格の分析に重きを置くとともに、具体的に記入する。	・性格や、自信を持っていること、関心のある事柄などを記入する。	自分の個性について、具体的に記入することができたか。
	4 友達からの手紙を読み、他からの分析を知る。 【書く】	・表面的な長所の記入に終わらず、具体的な事例を挙げながら長所を記入するよう促す。	・友達の長所を挙げ、どんな職業に向いているか予想する。	友達の長所を具体的に指摘することができたか。
	5 グループの代表者が、メンバーから1人を選び、分析カードの内容を発表する。 【発表する】	・冷やかしなどマイナス的な雰囲気が出ないように配慮する。学習規律を意識した発表を行わせる。		友達の長所を学級内で共有することができたか。
ま と め 13分	6 分析カードを踏まえて、自分の長所や特色についてまとめる。		・将来、職業に就くうえで、自分が身につけていなければならないことについて考え、まとめる	
	7 授業の感想を書く。			

第1学年 学級活動指導案

日 時 平成18年11月15日(水)

生 徒 1年C組 男子 20名

女子 18名

計 38名

指導者 小野寺 美和

1 題材名 「自分をよく知ろう」

2 題材設定の理由

(1) 題材について

特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」である。自己を生かす前提として、自分をよく知るということは不可欠であり、様々な方法によって自己を理解することは大きな意義がある。

現代は多様な職業が存在し、選択する上では広範囲の選択権が与えられるが、「何に向いているのか」といった自分の特色を把握しないことが原因で転職を繰り返す例も少なくない。そういった意味で、自分の能力や適性などの自己理解を深めていくことは、進路の学習を進めていく上で、かなり重要となってくる。この題材では、人それぞれの「個性」についての理解を深めながら、自分についてさらに詳しく分析し、自己理解をしていくという過程をとっている。自己分析の視点や方法について理解を深めるとともに、第1時では、「自己分析カード」を通して自分の特色を整理し、自己理解の学習をさらに他の面から進める手段として、自分の特色を級友などから指摘してもらうことを通して、客観的にまとめていく学習形態をとる。第2時では人の個性と職業の関係を考え、個性を生かしながら将来の職業選択に結びつけていけるよう導きたい。

本学年では「自他のよさを認めることができる生徒の育成」と「自分の考えをまとめ、発表できる生徒の育成」をめざしており、これらの指導にもふさわしい題材であると考えている。

(2) 生徒の実態

略

(3) 指導の構想

本題材の指導にあたっては特に「情報活用能力」に焦点を当てたいと考えた。自分の特徴や友達の特徴をまとめたり、様々な視点からの資料をもとに自己分析をしたりしようとする能力を育成したい。そのため、多面的に自己を見つめる場を設定することと他者の分析を行うことや他者からの分析を知ること、自己理解の深化を図りたい。自己の個性と職業との関係を考えることを通して、漠然とした将来の希望から具体性を帯びた職業選択へと向かうよう、導きたい。

3 指導計画(全2時間)

この題材では、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の育成を図る。

(1) 自分を知るための視点や方法を知り、自分を知る。(1時間) 本時

(2) 様々な視点からの自己理解を試み、将来の職業選択を考えようとする姿勢を持つ。(1時間)

○人間関係形成能力

自分や他者を理解しようとすることができる。

○情報活用能力

・「自己分析カード」をもとに自分の特色を見つけることができる。

・いろいろな情報をもとに自分の特色をまとめることができる。

○将来設計能力

自分の個性を生かす今後の生き方について考えることができる。

○意思決定能力

自分の特色・能力・適性などを考慮し、現実を踏まえながら夢の実現に向けて努力していく姿勢を持つことができる。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

様々な視点からの自己理解を試み、個性を知り、伸ばそうとする。

個性を認め合うことにより、円滑な人間関係を築こうとする。